

コラム 「経営系ITCのもう一つの選択」

税理士ITCである私にとってITCのプロセスガイドラインに沿ったシステムの導入と言うビジネスを実現するための機会に恵まれずには早3回目の更新時期を迎える事になりました。

そんな中で昨年の10月頃から私の所属するもう一つのITC届出機関である全国IT推進研究会(MSITC)から日本商工会議所EC実践能力検定試験講師研修の案内がありました。興味を持って参加したところ「現状まだネットワークに対応出来てない中小企業のシステム化のためには、先ず中小企業にネットワークの分る人材の育成が必要なんだ」と言う思い、そのための仕組として

-日本商工会議所 EC実践能力検定試験及びその講師-

のネット検定、看板は日本商工会議所である点に強く惹かれました。

試験内容は広くネットワークの知識を網羅するものになっています。これはPCがネットに接続された時点からパーソナルコンピューターではなくパブリックコンピューターとなると見点から、自動車の運転免許証のようにネットワークの公道を走るために必要な知識技能を必要としているからです。2級、1級からは知識試験に併せて一定の技能研修も要求される検定になっています。

EC実践能力検定試験の内容 (<http://www.kentei.ne.jp/ec/>より)

企業においてネットワーク社会への対応を推進する人材として、必要とされる以下の能力(知識、スキル)を問う。

- ① 外部調整(ベンダー等とハード、ソフトについて自社の業務に照らして、意見交換ができる能力。ネットワーク関連の基礎知識)
- ② 内部調整(企業内の情報化について、運用方針を定め各部門との連絡調整ができる能力)
- ③ セキュリティ管理(セキュリティ対策に関する知識、スキル)
- ④ 危機管理(ネットワーク社会におけるトラブルを未然に防止するとともに、トラブルが起きた際の的確な対処)
- ⑤ 法律知識(個人情報保護、著作権、ネット取引等に関する法律知識)
- ⑥ 電子認証(入札やECで必要となる電子認証に関する知識やスキル)
- ⑦ 情報通信機器に関する知識(サーバー、パソコン、モバイル端末、IP電話等)
- ⑧ Webマスター(ホームページ運用と効果的なPR、広報、ニュースリリース等)
- ⑨ 情報・データ管理(企業情報の蓄積・保存・バックアップ・管理)

この東海地方に於いては講師やネット検定場が不備な状態にあります。日本商工会議所では講師、ネット検定場ともに公募しています。私も地元の商工会議所の了解の元に新年度から狭い事務所ですが改装をしてネット検定場を併設します。まだ知名度の低いネット検定ではありますがネットワーク社会に対応出来る中小企業の人材育成の一助として興味のある方は参加して下さい。

尚、既にご承知とは思いますが平成17年度から人材投資(教

コラム 「勉強会をとおしてノウフー蓄積」

みなさん、「ノウフー」ってご存知ですか？お恥ずかしながら、私はつい最近までこの言葉を知りませんでした。ノウハウではなくノウフー(KnowWho)。一言で書くと、誰が何を知っている(得意)かの情報です。

すでに大企業では、ノウフーの蓄積データベースを使い、社員のノウフーを集約しているそうですが、中小企業はどうでしょうか。ノウフーの蓄積はしていますか？全社でのデータベース化はしていますか？

中小企業の一社員である私の頭の中には、社内のノウフーが蓄積されていますが、データベース化はしていません。そして情報量が多いとは思えませんし、必要はないと思ったからです。しかし、中小企業とはいって、競争社会です。情報量の多寡とは別の次元で考えたとき、中小企業においても、全社レベルで、ノウフー共有を図るためのデータベース化は、必要なものだと捉えていくべき

(ITC中部 熊澤 彰人)

かもしれません。もちろん、自社内だけでは不足しています。データベース化するのであれば、外部のノウフーも、同時に蓄積をする必要はあるでしょう。

ところで、ITCの資格を取得し、たくさんの人と出会うことができました。そして、グループ開催の勉強会に参加することで、実はいろいろな方々のノウフーを得ることができます。今はまだ、「飲み屋のことなら××さん。四柱推命のことなら△△さん。ホノルルマラソンのことなら○○さん。」と、お世辞にも仕事に直結するとはいえないノウフーばかりですが、今後も継続して開催予定の勉強会を通じて、お互いどういった仕事をしていて、どういったことが得意なのか、もちろんプライベートのノウフーも含めて、ノウフーの蓄積に努めていきたいと思います。

(ITC中部 大鍋則子)

NPO・ITC中部広報誌 第4号 平成17年3月16日 発行

発行：NPO・ITC中部広報委員会(〒460-0022 名古屋市中区金山五丁目11-6(NSC)内)

発行責任者：NPO・ITC中部 理事長 関口幸一 編集責任者：NPO・ITC中部 広報委員長 和澤 功

ホームページ(<http://www.itc-chubu.jp/>)



ITC中部 今光会長就任のご挨拶

このたび、ITC中部の会長をおおせつかりました今光でございます。今後ともよろしくお願ひ申しあげます。

全国におられます約4000名の中の、中部ITコーディネータの方々のコーディネータ役を引き受けたものと私自身は理解しております。それに加えて理事会から付託されましたもう一つの仕事は、ITコーディネータの役割の必要性や重要性をこの中部地域の方々により一層認知を深めていただくことだと理解しております。

アメリカの規模の大きな会社には、必ずといってもよい程コーディネータと名のつく職位の人がいます。私の経験では新製品(研究・開発)コーディネータという役職があるのを知っています。この職位には通常、常務クラスの権限や年俸が与えられています。多くの場合大手コンサルタント会社の新製品開発または研究・開発についての専門家から選ばれることが多いようです。

日本の産業界では、業界を渡り歩いて出世していくという社会にはなっていないので、これまで企業内にはコーディネータという職位は見当たりませんでした。しかし、グローバル化時代の産業界では追い追い認知されていくものと思っています。

例えば、紅茶で有名なT.J.リプトン社の新製品開発委員会では、社長が委員長となり、研究、製造、営業、広告の各担当役員が委員に任命されています。新製品の開発については、委員会の全員の意見の一一致と各部門のスケジュールについての完全な同意が必要とされています。この責任は同社の新製品開発コーディネータに委ねられます。

ITコーディネータは、今年を達成目標年度とする「世界最先端のIT国家となる」e-Japan戦略に基づいて2001年に経済産業省の肝いりで出来た資格ですが、単に中小企業のIT化支援にとどまらず教育・学習分野、行政・公共分野のIT化、社会のIT化の進展に伴って発生するデジタル・ディバайдの解消など、その活躍し得る分野は無限であります。

またIT技術はこれまでの労働集約的な仕事を情報集約的(今光の造語)な仕事に転換させる大きな機能を秘めています。私の専門分野の一つでありますロジスティクスやサプライチェーン・マネジ



今光廣一 会長

メント(SCM)の分野でも単なる作業の改善を超えてビジネス・プロセスの革新につながるケースが相次いでいます。

流通の分野では、アメリカでこれまで常に優位を誇っていた食品製造業界が、小売業や卸売業界によるIT化と大型化によってリーダーシップを奪われてしまいました。

またこれらのパワー・リテラーに対抗してメーカーや中小の卸、中小のスーパーや小売業は提携して仕入れシステムや流通システムのIT化によってコスト削減に成功しました。Efficient Consumer Response-ECR(効率的消費者対応)とよばれるものです。

これまでメーカーは成熟した市場を相手に常に過剰な在庫を流通段階に発生させていました。いわゆる川上から、川下へ押し込み販売であったのですが、POSシステム(販売時点情報管理)によって、消費者需要を基点にする流通フローを生み出し、メーカーからの商品は、必要な時に、必要なだけ小売店に届けられるようになりました。

以上は、企業同士および産業同士の競争優位をめぐってITが活用されているケースですが、今や舞台は国と国との競争優位をめぐって、IT戦略のレベルが問われています。例えば産業のインフラとして港湾の情報化においては、日本はアジアの主要港に比べて劣っており、早急な対応が急がれております。ここにおいても皆様方のさらなるご支援をお願いする次第であります。

(NPO・ITC 中部 会長 今光廣一)

中部IT経営応援隊発足について

IT経営応援隊は、これまで経済産業省が取り組んできたITSSP事業（戦略的情報化投資促進事業）や本年度策定された中小企業IT化推進計画Ⅱの理念を踏まえ、その具現化・加速化を図るために結成されました。中小企業の経営改革やITの活用に携わる多数の関係者が協力して中小企業の経営改革をITの活用により応援することを通じ、中小企業の活性化を図るとともに、我が国産業の競争力強化を実現することを目的としています。

当地区におきましても平成16年11月19日に中部IT経営応援隊が発足し、名古屋ソフトウェアセンターも愛知県の事務局として、愛知県・名古屋市等の支援機関をはじめ、金融機関やベンダーを組織化し活動を開始しています。過去6年にわたるITSSP事業の成果と課題を元に地域版IT経営応援隊が立ち上がった訳です。本事業の推進により、ITCの事業機会増、社会的地位向上に繋がる絶好の機会と考えます。



◆ 中部IT経営応援隊（愛知）の主な事業内容

1. IT経営応援隊本隊事業の推進

- ① IT経営教科書の普及活動（レビューと評価、実際の利活用）
- ② IT経営百選支援活動（各支援機関の支援先成功事例、ビジネスモデルとして広く他へ紹介）



2. IT投資活性化の促進

- ① 応援隊ホームページ開設
 - ・各種支援機関HPからリンク
 - ・WG参加ベンダー紹介（企業情報、製品、サービス、ソリューション紹介、IT導入成功事例紹介）
 - ・ソリューション検索サービス（ユーザ企業が利用できるITソリューション検索サービスを提供）
- ② セミナー活動
 - ・中部IT経営応援隊主催セミナー（年2回程度） 各支援機関およびベンダー各社の協力により集客
 - ・各支援機関、ベンダー主催セミナーへの応援隊協賛（名称、ロゴマークの使用、応援隊よりセミナー講師の派遣）
 - ・各種テーマセミナー
 - 「IT経営教科書」による経営者向けセミナー
 - 「IT経営教科書」による支援機関向けセミナー



■ IT経営支援セミナー（2005年2月15日）
《寄稿》
中部IT経営応援隊愛知事務局
株式会社名古屋ソフトウェアセンター
取締役企画部長 伏見 真 様

3. IT導入支援事業

- ① 支援機関及びサポートーからの紹介案件対応
 - ・各種支援機関、サポートーからの紹介案件に対してITコーディネータを派遣して経営戦略立案、戦略情報化企画、RFPを作成。
 - ・ベンダー各社に提案を要請（ベンダー各社のソリューション・導入事例を予めデータベース化し、適切な提案依頼先候補ベンダーを選抜）
 - ・ベンダー各社の提案を評価・選考。

「平成16年度第1回例会・講演会」を開催！

平成16年度第1回（通算6回目）のNPO・ITC中部例会・講演会が、さる平成16年11月20日（土）、名古屋市内の名鉄会館において74名の会員の参加により盛大に開催されました。今回は、中部経済産業局情報政策課長補佐山口昌彦氏を基調講演にお招きし「中部IT経営応援隊発足について」と題してご講演いただき、これに引き続いて、株式会社名古屋ソフトウェアセンター取締役企画部長伏見真氏より「愛知IT経営応援隊発足について」と題して愛知県での具体的な取り組みについてのご講演いただきました。また、特

別講演として、NPO・ITC中部会長の今光廣一氏より「現代ロジスティクスと情報化社会」と題してご講演いただき、最後にモリ環境衛生センター株式会社代表取締役社長森延博氏より「環境ビジネスに見るコンサルティングの有り方」と題してご講演をいただきました。例会・講演会終了後は今光会長をはじめ多数の会員が参加して懇親会が開催され、和気藹々とした雰囲気のもと活発な意見交換が行われました。

（ITC中部 杉山浩一）

PMBOK研修会の開催報告

NPO・ITC中部の主催としては2回目となるPMBOK研修会を昨年9月19日（日）、20日（祝）の2日間にわたり開催致しました。第1回があまりにも盛況だったので“柳の下のドゼウ”を期待した訳ではありませんが、おかげさまにて47名の参加を戴け無事にセミナーを修了することができました。主催者として一言御礼を申し上げます。まことに好評でありますので、今年も実施したいと考えております。その節には、是非ともITCのみならず企業経営者・管理者などへのアピールを宜しくお願ひします。

さて、このPMBOK研修会は開催の仕方が他の行事と違う点がありますので紹介方々ご案内をさせて戴きます。まず、今回の主催は、ITC名古屋とNPO・ITC中部が共同主催したものです。NPO・ITC中部の“止まり木組織”として、現在『ITC名古屋』と『ITC東海』の2つの組織があります。そのお披露目（紹介）も兼ねて共同主催の形となりましたが、NPO・ITC中部としては、このような下部組織が多数誕生し

て活発な活動をされるよう支援をしておりますので、会員各位には是非ともグループ活動を活発におこなわれITCAに組織の申請をされるよう願っております。いろいろと恩典もありますので仔細は事務局に相談ください。また後援としては、名古屋商工会議所、名古屋ソフトウェアセンターにもご協力を仰いでおります。今回のセミナー会場は、名古屋商工会議所にお世話を戴きました。

こんな形でのコラボレーションも将来のITC活動の場を広げるための一助となればと期待しております。今後は、もっと色々な団体や法人と組みながらITC活動を活性化していきたいと願っておりますので会員各位のご支援を宜しくお願いします。

最後になりましたが、このようなセミナーについてご意見、ご要望を隨時、事務局にて承っております。忌憚のないご意見をお待ち致します。

（ITC中部 高間正俊）

経営情報学会とのコラボレーション

2004年11月13日、名古屋工業大学にて経営情報学会秋季全国研究発表大会が開催されました。ITC中部と同学会との初の共催で、ITCA公認マルチポイント付与のセミナーが開催されました。同学会は、1992年に経営情報に関する研究の推進と議論の場として設立された全国的組織です。経営とITの架け橋をミッションとするITCと目的を同じくするものであり、これを契機として広く協働することを期待し今回の行事が企画されました。当日は、和澤広報委員長、高間

さんと小職の講演の後、愛知万博チーフプロデューサーの福井昌平氏から「愛知万博の開催意義とその魅力」、リンナイ会長の内藤明人氏から「情報の選択と経営」のご講演と充実した5時間でした。また、夕刻の学会懇親会にもITC中部メンバーも参加し交流を深めました。当セミナーへは、ITC中部から、60名あまりの参加者に加え、経営情報学会員の出席もあり、大会全体では300名以上の参加者と、大成功を収めました。

（ITC中部 吉田信人）

「ITCあおもり」との交流会

他のITC組織との交流会活動の第2回交流会として、平成16年10月8日～9日にかけて「ITCあおもり」を訪問しました。ITC中部からは広報委員会の和澤委員長はじめ5名が参加しました。「ITCあおもり」は今年8月にNPO法人を設立され、総勢29名の会員で青森県のIT推進活動の中心となって頑張っておられます。

青森で「第三回ITCワークショップin東北」が開催され、私たちはこのイベントに参加する形での交流会となりました。このイベントでは11テーマの講演があり、自治体情報化の課題やIPAのIT経営戦略策定ツールの事例まで幅広く、その講師の方々も青森県のIT専門監や大学の教授からITCあおもりの方まで多彩でした。良くこれだけのテーマと講師を揃えられたと、「ITCあおもり」の方の準備と努力に感心しました。

和澤委員長も「ITC中部におけるITC活躍事例」と題して講演をしました。ITC中部の紹介からITCの活動、さらに中部地区の製造業の動向まで幅広い内容で大変好評でした。「ITCあおもり」の方から今後も是非このような交流をさせて頂きたいと言われました。

「第三回ITCワークショップin東北」は、ITC東北としてのイベントであり、東北各県のITC組織の方と連携して活動を行っておられ、今回も、岩手・宮城・秋田・福島からも参加されていました。ITC中部も、

もっと周りのITC組織と協調してITC活動を盛り上げるべきであると感じました。

今回の訪問で「ITCあおもり」の新見会長、田中副会長、はじめ多くの皆さんと交流が出来たことは非常に有意義であり、今後も交流を行うことで一致しました。

（ITC中部 伊藤実）



■「第三回ITCワークショップin東北」のセミナー会場